

## 柔道整復科 (3年次)

2021 年度 シラバス目次			
科目名	項	科目名	項
1. 療法科学	2	21. 応用柔整実技 I	67
2. 病理学概論 II	7	22. 応用柔整実技 II	72
3. 公衆衛生学・衛生学	9		
4. 社会体育Ⅲ(柔道)	13		
5. 関係法規	17		
6. 基礎柔道整復学Ⅳ	19		
7. 基礎柔道整復学Ⅴ	22		
8. 基礎柔道整復学Ⅵ	25		
9. 基礎柔道整復学Ⅶ	28		
10. 基礎柔道整復学Ⅷ	31		
11. 基礎柔道整復学Ⅸ	34		
12. 柔整実技 I A	37		
13. 柔整実技 I B	39		
14. 柔整実技 I C	41		
15. 柔整実技 II A	45		
16. 柔整実技 II B	48		
17. 柔整実技 II C	51		
18. 柔整実技ⅢA	55		
19. 柔整実技ⅢB	58		
20. 柔整実技ⅢC	61		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	療法科学
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	4単位(68時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 病理学概論第3版 医歯薬出版株式会社 一般臨床医学第3版・外科学第4版・リハビリテーション医学第3版・ 整形外科学第4版・衛生学公衆衛生学第6版

授業概要と目的
一般臨床医学をはじめとした各教科の包括的復習を行うことにより様々な疾患に対する理解を深め、柔道整復学とのつながりを強固なものとし、医療従事者の一員である柔道整復師として業務を行うにあたり、より医療知識に精通した医療人の育成を目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期	「一般臨床総論①」 視診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に診察としての視診について学ぶ」 視診の方法と体格、姿勢など各評価項目の代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
2	後 期	「一般臨床総論②」 打診、聴診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に打診、聴診について学ぶ」 打診、聴診の方法と打診音、聴診音など各評価項目の代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
3	後 期	「一般臨床総論③」 触診についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に触診について学ぶ」 触診の方法と各部位の触診によって評価できる代表的な異常と疾患の関係について説明できる。	中村浩
4	後 期	「一般臨床総論④」 生命徴候についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に生命徴候について学ぶ」 体温、血圧、脈拍、呼吸の正常と異常の違い及び疾患の関係について説明できる。	中村浩

5	後期	「一般臨床総論⑤」 感覚検査、反射検査についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に感覚検査、反射検査について学ぶ」 感覚の種類と検査方法及び反射の種類と検査方法の特徴と意義について説明できる。	中村浩
6	後期	「一般臨床総論⑥」 臨床症状についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な臨床症状について学ぶ」 出血傾向、意識障害、浮腫などの代表的な臨床症状と疾患の関係について説明できる。	中村浩
7	後期	「一般臨床各論①」 代表的な呼吸器疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に呼吸器における代表的な疾患について学ぶ」 呼吸器疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
8	後期	「一般臨床各論②」 代表的な循環器疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に循環器における代表的な疾患について学ぶ」 循環器疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
9	後期	「一般臨床各論③」 代表的な消化器疾患（総論、消化管疾患）についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に消化器における主要な徴候と消化管の代表的な疾患について学ぶ」 消化器疾患の主要徴候と消化管疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
10	後期	「一般臨床各論④」 代表的な消化器疾患（肝胆膵疾患、腹膜疾患）についての理解を深める。	「一般臨床医学、外科学を軸に消化器における肝胆膵と腹膜の代表的な疾患について学ぶ」 消化器疾患の肝胆膵疾患、腹膜疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
11	後期	「一般臨床各論⑤」 代表的な代謝疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な代謝疾患について学ぶ」 代謝疾患の概念と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
12	後期	「一般臨床各論⑥」 代表的な内分泌疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に代表的な内分泌疾患について学ぶ」 内分泌疾患の概念と各ホルモンの特徴及び	中村浩

			各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	
13	後期	「一般臨床各論⑦」 代表的な血液・造血管疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に血液・造血管における代表的な疾患について学ぶ」 血液・造血管疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
14	後期	「一般臨床各論⑧」 代表的な腎・尿路疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に腎・尿路における代表的な疾患について学ぶ」 腎・尿路疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
15	後期	「一般臨床各論⑧」 代表的な神経疾患についての理解を深める。	「一般臨床医学を軸に神経系における代表的な疾患について学ぶ」 神経疾患の主要徴候と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
16	後期	「一般臨床各論⑨」 代表的な感染症についての理解を深める。	「一般臨床医学・病理学・外科学・公衆衛生学を軸に代表的な感染症について学ぶ」 感染の原因と経路、病因及び各感染症の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
17	後期	「一般臨床各論⑩」 リウマチ・代表的な膠原病・アレルギーについての理解を深める。	「一般臨床医学・病理学・整形外科学を軸にリウマチ・膠原病・アレルギーについて学ぶ」 リウマチ・膠原病・アレルギーの疾患の概念と各疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
18	後期	「感染性疾患」 代表的な外科的感染性疾患についての理解を深める。	「整形外科学・外科学を軸に化膿性骨髄炎を代表とする外科的感染性疾患について学ぶ。」 化膿性骨髄炎や骨関節結核などの代表的な外科的感染性疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
19	後期	「腫瘍」 腫瘍の一般についての理解を深める。	「外科学・病理学・整形外科学を軸に腫瘍の概念、分類、種類について学ぶ」 腫瘍の概念、成因、分類と主な良性・悪性腫瘍の種類及び特徴について説明できる。	中村浩

20	後 期	「非感染性軟部・骨関節疾患」 変形性関節症などの非感染性の軟部・骨関節疾患についての理解を深める。	「整形外科学を軸に非感染性の軟部・骨関節疾患について学ぶ」 変形性関節症や骨粗鬆症に代表される非感染性軟部・骨関節疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
21	後 期	「先天性疾患」 遺伝、染色体の異常による先天性疾患についての理解を深める。	「病理学・整形外科学を軸に遺伝・染色体異常による先天性疾患について学ぶ」 先天性疾患の概念と遺伝・染色体の異常による代表的疾患の分類、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
22	後 期	「骨端症」 代表的な骨端症についての理解を深める。	「整形外科学を軸に代表的な骨端症について学ぶ」 ペルテス病をはじめとする骨端症の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
23	後 期	「整形外科的神経・筋疾患」 絞扼性神経障害や脊髄損傷に代表される外科的神経・筋疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に整形外科的神経・筋疾患について学ぶ」 絞扼神経障害や全身性神経・筋疾患、脊髄損傷等疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
24	後 期	「整形外科的体幹部疾患」 ヘルニアに代表される体幹にみられる整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に体幹に発生する代表的な疾患について学ぶ」 頸椎症、ヘルニア、脊柱管狭窄症などの体幹に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
25	後 期	「整形外科的 upper limb 疾患」 上肢に発生する代表的な整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に上肢に発生する代表的な疾患について学ぶ」 腱板損傷、手根管症候群など上肢に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
26	後 期	「整形外科的 lower limb 疾患」 下肢に発生する代表的な整形外科的疾患についての理解を深める。	「整形外科学・リハビリ学を軸に下肢に発生する代表的な疾患について学ぶ」 アキレス腱断裂、外反母趾など下肢に発生する疾患の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩

27	後 期	「脳・神経外科疾患」 外科的な脳・神経の中枢性疾患についての理解を深める。	「外科学を軸に代表的な脳・神経疾患について学ぶ」 脳・神経疾患の主要徴候と代表的な頭部外傷、脳血管障害の概説、原因、症状、診断及び治療のポイントについて説明できる。	中村浩
28	後 期	「損傷」 外傷、熱傷など損傷についての総論的理解を深める。	「外科学、病理学を軸に外傷、熱傷など損傷についての総論的内容を学ぶ」 損傷、創傷、熱傷の概説、分類、判定、治療基準のポイントについて説明できる。	中村浩
29	後 期	「ショック」 ショックについて理解を深める。	「外科学を軸にショックについて学ぶ」 ショックの分類とそれぞれの特徴及び処置法について説明できる。	中村浩
30	後 期	「消毒」 消毒と殺菌及び滅菌についての理解を深める。	「公衆衛生学・外科学を軸に消毒と殺菌及び滅菌について学ぶ」 消毒法の分類と各消毒薬についての特徴及び方法について説明できる。	中村浩
31	後 期	「炎症」 病理学的な炎症の一般と分類について理解を深める。	「病理学を軸に炎症の一般と分類について学ぶ」 炎症の原因と形態学的変化及び炎症の分類について説明できる。	中村浩
32	後 期	「免疫」 免疫の仕組みと免疫不全、自己免疫疾患についての病理学的理解を深める。	「病理学を軸に免疫の仕組み、免疫不全及び自己免疫疾患について学ぶ」 免疫の仕組みと関連する免疫不全、自己免疫疾患、アレルギーの特徴について説明できる。	中村浩
33	後 期	「病因①」 病因の一般と内因についての理解を深める。	「病理学・公衆衛生学を軸に病因の一般と内因について学ぶ」 病因についての概説と素因、体質、遺伝などのそれぞれの内因の特徴について説明できる。	中村浩
34	後 期	科目試験		中村浩
成績評価 方法		中間試験(40%) 科目試験(60%)		
準備学習 など		教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。		
留意事項		特になし		

学科・年次	柔道整復科・3年次
科目名	病理学概論Ⅱ
担当者	加藤 裕美
単位数（時間数）	2単位(34時間)
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(病理学概論)

授業概要と目的
病理学概論の知識を基礎として、個々の代表的な疾患の病態を学び、代表的な疾患における疾病の発症機序や形態的变化を説明できることを目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する①	循環器疾患の基礎となる心臓の構造、動脈、静脈、刺激伝導系について理解し説明することができる。	加藤 裕美
2	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する②	循環器疾患の先天性疾患疾患、虚血性心疾患、高血圧症について理解し説明することができる。	加藤 裕美
3	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する③	血液疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
4	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する④	リンパ系器官、リンパ系疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
5	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑤	上部消化管疾患、特に胃の構造、代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
6	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑥	下部消化管疾患、特に腸の構造、腸の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美

7	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑦	肝臓の代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
8	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑧	脾臓、胆道の代表的な疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
9	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑨	呼吸器疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
10	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑩	腎臓、泌尿器系の疾患、構造について理解し説明することができる。	加藤 裕美
11	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑪	生殖器系の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
12	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑫	内分泌系の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
13	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑬	脳疾患、クモ膜下出血、脳内出血、硬膜下血腫等について学び説明することができる。	加藤 裕美
14	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑭	脳の感染症、アルツハイマー、パーキンソン病等について理解し説明することができる。	加藤 裕美
15	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑮	運動器に関する疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
16	前期	柔道整復師が必要とする病理学的基礎とその代表的疾患について理解する⑯	耳、眼の疾患について理解し説明することができる。	加藤 裕美
17	前期	期末テスト まとめ	試験を行い、解説をし、知識を修得する。	加藤 裕美
成績評価方法		試験による成績により評価する		
準備学習など		予習・復習を行っておくように。		



学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	公衆衛生学・衛生学
担当者	中村 浩
単位数（時間数）	2単位（34時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	南江堂 公衆衛生学 改訂第6版

授業概要と目的
国民の健康、医療倫理、感染症の知識や消毒など広く国民福祉に関わる事柄を学ぶことで、国民の健康を運動器の観点から守っていく柔道整復師が一人の医療従事者としてより健康に貢献できる存在となるための知識を身につける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	「(公衆)衛生学の歴史と公衆衛生活動」 (公衆)衛生学の歴史と公衆衛生活動の種類を理解する。	「衛生学と公衆衛生学の学問としての歴史及び公衆衛生活動の5つの基本分野を学ぶ」 ①単語や人名を交えて衛生学・公衆衛生学の歴史を説明できる。 ②人口統計や健康教育などの公衆衛生活動の概要を説明できる。	中村浩
2	前期	「健康の概念」 健康と生活の役割及び健康の測定について理解する。	「健康と生活習慣病の関係及び人口統計をはじめとした健康の測定について学ぶ」 ①健康の概念と国際生活機能分類の関係や生活の役割について説明できる。 ②人口動態統計と人口静態統計について説明できる。 ③粗死亡率などの健康指標の種類を説明できる。	中村浩
3	前期	「疾病予防と健康管理」 病因と危険因子の概念と疾病予防の段階について理解する。	「病因と危険因子の概念と疾病予防の各段階について学ぶ」 ①病因となりうる危険因子の概念を説明できる。 ②一次、二次、三次予防の各段階のそれぞれの特徴を説明できる。	中村浩

4	前期	「感染症の予防」 感染症の原因となる病原体と感染成立の条件及び感染症の予防対策を理解する。	「感染症の病原体の種類と感染成立の条件及び感染症法における分類とその対策を学ぶ」 ①感染症成立の3つの要因について説明できる。 ②ウイルスや細菌感染症の種類について説明できる。 ③感染症の予防対策と感染症の分類について説明できる。	中村浩
5	前期	「消毒①」 消毒法の目的による分類と消毒の種類と方法について理解する。	「消毒法の目的による分類の違いと消毒の3要素及び消毒法の種類と方法を学ぶ」 ①滅菌、殺菌などの単語の意味をそれぞれ説明できる。また、消毒の効力に影響を及ぼす要素の説明ができる。 ②理学的・化学的消毒法の種類と特徴について説明できる。	中村浩
6	前期	「消毒②」 消毒法の応用と施術における消毒及び院内感染対策について理解する。	「手指や皮膚の消毒や施術時の消毒方法及び院内感染への対策を学ぶ」 ①清拭法や皮膚への消毒薬の選択などについて説明できる。 ②院内感染対策のスタンダード・プリコーションについて説明できる。	中村浩
7	前期	「環境衛生(環境保健)①」 地球環境、生物環境に対しての問題と環境要因について理解する。	「温暖化などの環境変化や生態系異常の問題及び気温や喫煙などの環境要因について学ぶ」 ①人口増加や温暖化などの環境の問題についての概要を説明できる。 ②温熱の4要素をはじめとした各環境要因の概要を説明できる。	中村浩
8	前期	「環境衛生(環境保健)②」 公害や大気汚染などによる生活環境の被害について理解する。	「公害の歴史と公害による汚染及び環境問題について学ぶ」 ①4 大公害訴訟の原因や被害について説明できる。 ②環境問題の指標となる大気汚染や水質汚濁などの種類を説明できる。	中村浩

9	前期	「生活環境・食品衛生活動」 水や食品の衛生問題について理解する。	「水の衛生と水質汚濁及び食品中の病原微生物による健康被害について学ぶ」 ①上水、下水の普及率や検査項目など問題点の説明ができる。 ②食中毒の健康被害など原因別に説明できる。	中村浩
10	前期	「母子保健」 母子保健の指標について理解する。	「乳児死亡率、周産期死亡率などの母子保健の指標となる項目を学ぶ」 ①乳児死亡や周産期死亡などの定義と原因について説明できる。	中村浩
11	前期	「学校保健」 学校保健の組織と運営及び予防すべき感染症について理解する。	「学校保健の組織と運営及び学校において予防すべき感染症の3種について学ぶ」 ①学校保健に関係する職員の種類と役割について説明できる。 ②学校において予防すべき感染症の種類や出席停止期間の基準を説明できる。	中村浩
12	前期	「産業保健」 労働災害や業務上疾病及び各要因による健康障害について理解する。	「労働災害の動向や業務上疾病とその原因と対策について学ぶ」 ①労働災害と業務上疾病の発生状況について説明できる。 ②各要因による健康障害とその予防の基本について説明できる。	中村浩
13	前期	「成人・高齢者保健」 成人・高齢者の主要死因別の死亡率推移や生活習慣病別の死亡率や特徴について理解する。	「主要死因別死亡率の推移状況及び各生活習慣病の特徴や死亡率について学ぶ」 ①主要死因別にみた死亡率の推移について説明できる。 ②生活習慣病の占める死亡割合と総患者数及び特徴について説明できる。	中村浩
14	前期	「精神保健」 精神の病気の種類と精神障害受療者の疾病別割合について理解する。	「精神の病気の種類と特徴及び精神障害受療者の疾病別割合について学ぶ」 ①統合失調症をはじめとした精神の病気の種類と特徴について説明できる。 ②外来・入院別で精神障害受療者の割合について説明できる。 ③任意入院や措置入院などの用語の説明ができる。	中村浩

15	前期	「地域保険と国際保健」 地域保険と保険に関する国際協力について理解する。	「地域保険の展開やWHOの業務及び国際的な環境保全について学ぶ」 ①ヘルスプロモーションなどの地域保険に関する用語と実際について説明できる。 ②WHOの活動について説明できる。 ③ウィーン条約などの国際的な環境保全に関する用語について説明できる。	中村浩
16	前期	「衛生行政と保健医療の制度」 衛生行政機構の概要及び医療保険制度を理解する。	「わが国の衛生行政に関わる組織の概要とその業務及び医療保険制度の概要について学ぶ」 ①国、都道府県、保健所などの衛生行政機構の概要と役割について説明できる。 ②医療保険制度と保険給付について説明できる。	中村浩
17	前期	「疫学②」 分析疫学の研究方法と特徴を理解する。  科目試験	「疫学における調査方法の種類と特徴について学ぶ」 ①記述疫学と分析疫学についての説明ができる。 ②疫学研究におけるエビデンスレベルとバイアスの関係について説明できる。	中村浩
成績評価方法	中間試験(40%) 科目試験(60%)			
準備学習など	教科書や配布資料等を用いて予習復習に努めること。			
留意事項	特になし			

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	社会体育Ⅲ（柔道）
担当者	近藤英隆
単位数（時間数）	2単位（68時間34コマ）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	「柔道」全国高等学校協会体育連盟柔道部編集 史資料出版協会発行

授業概要と目的
<p><b>【何を学ぶか / Outline and objectives】</b>  実務経験のある柔道整復師より、柔道の基本的動作をマスターし、対人的技能における攻撃・防御の技能を実践的に体得する</p> <p><b>【到達目標 / Goal】</b>  技能の程度に応じた練習や試合ができるようにする。  礼儀作法や相手を尊重し、公正な態度で相手を労わりながら練習や試合ができるようにする。</p> <p><b>【授業の進め方 / Method】</b>  柔道の特性を理解させて基本動作である礼法、組み方、崩し、進退動作、受身、投げ技、固め技、技の連絡変化、自由練習を体得し、安全に留意して練習や試合ができるように学習する。さらに、専門的知識及び実技能力以外に、その領域特性を踏まえた体づくり運動も行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	抑え込み技 時間、参りの合図 袈裟固め 肩固め ・押さえ込み技が実践できる	近藤英隆
2	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	上四方固め 横四方固め 縦四方 ・固め技が実践できる	近藤英隆
3	通年	固め技 ・固め技について理解を深める	崩れ四方固め ・固め技が実践できる	近藤英隆
4	通年	寝技自由練習	抑え込み技 自由練習	近藤英隆

		・固め技について理解を深める	・固め技が自由練習にて実践できる	
5	通年	柔道の形 間合いと礼法 ・柔道の形について理解を深める	間合いと礼法 手技① 浮き落とし ・浮き落としが説明できる	近藤英隆
6	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	手技② 背負い投げ ・背負い投げが説明できる	近藤英隆
7	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	手技③ 肩車 ・肩車が説明できる	近藤英隆
8	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技① 浮き腰 ・浮き腰が説明できる	近藤英隆
9	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技② 払い腰 ・払い腰が説明できる	近藤英隆
10	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	腰技③ 釣り込み腰 ・釣り込み腰が説明できる	近藤英隆
11	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技① 送り足払い ・送り足払いが説明できる	近藤英隆
12	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技② 支え釣り込み足 ・支え釣り込み足が説明できる	近藤英隆
13	通年	柔道の形 ・柔道の形について理解を深める	足技③ 内股 ・内股が説明できる	近藤英隆
14	通年	活法 ・活法について理解を深める	活法（惣活のやり方・心得） ・活法が説明できる	近藤英隆
15	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	裸絞め 送り襟絞め 片羽絞め ・締め技が説明できる	近藤英隆
16	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	並十字絞め 逆十字絞め ・絞め技が説明できる	近藤英隆
17	通年	絞め技 ・絞め技について理解を深める	絞め技の防御法 ・絞め技が説明できる	近藤英隆

		る		
18	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・礼法を中心に復習する ・形と礼法が説明できる	近藤英隆
19	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
20	通年	試験とまとめ ・授業の習熟を確認	試験と解説 ・固め技、投げの形、礼法、投技、絞め技について説明ができる	近藤英隆
21	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
22	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
23	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
24	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
25	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
26	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
27	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
28	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
29	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
30	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆

		める		
31	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
32	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
33	通年	自由練習 ・形と礼法を復習し理解を深める	形・投げ技を中心に練習する ・形と投技が説明できる	近藤英隆
34	通年	試験とまとめ	試験と解説	近藤英隆
評価方法		出席点、授業への参加意欲、試験結果を評価とする。		
準備学習など		事前学修 次回の学修内容について事前学習をしておくこと。		



学科・年次	柔道整復科・3学年
科目名	関係法規
担当者	玉置 大輔
単位数（時間数）	2単位（34時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	関係法規（医歯薬出版株式会社）

授業概要と目的
柔道整復師の行う業務範囲及び業務の制限について理解する。開業する場合の設置基準や守秘義務など柔道整復師として必要最低限の知識を得ること、さらに他の法律との関連性についても学ぶことを目的とし、柔道整復師として接骨院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・ 法の意義・体系について理解する。	・ 法の種類と内容を要約し、相手に伝えられるように知識を深める。	玉置 大輔
2	前期	・ 柔道整復師法について理解する。	・ 目的と意義、免許について学び、知識を深める。	玉置 大輔
3	前期	・ 柔道整復師法について理解する。	・ 柔道整復師名簿、免許の書換、再交付について知識を深める。	玉置 大輔
4	前期	・ 柔道整復師国家試験について柔道整復師の業務について理解する。	・ 柔道整復師試験の要綱、実施について理解する。また柔道整復師の業務について知識を深める。	玉置 大輔
5	前期	・ 中間テスト①	・ 今まで学習した内容を確認する。	玉置 大輔
6	前期	・ 業務について理解する。	・ 業務範囲や禁止事項について知識を深める。	玉置 大輔
7	前期	・ 施術所とその広告について理解する。	・ 施術所・広告の規定について知識を深める。	玉置 大輔
8	前期	・ 罰則について理解する。	・ 各種刑罰について知識を深める。	玉置 大輔

9	前期	・ 医師法について理解する。	・ 医師法とその内容について知識を深める。	玉置 大輔
10	前期	・ 中間テスト②	・ 今まで学習した内容を確認する。	玉置 大輔
11	前期	・ 歯科医師法、保健師助産師看護師法について理解する。	・ 各法律の内容について知識を深める。	玉置 大輔
12	前期	・ 医療従事者の法律について理解する。	・ 各医療従事者の法律について特に国家試験出題のある理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、薬剤師を中心に知識を深める。	玉置 大輔
13	前期	・ 医療法について理解する。①	・ 総則や医療選択の支援等について知識を深める。	玉置 大輔
14	前期	・ 医療法について理解する。②	・ 医業、歯科医師又は助産師の業務等の広告、医療の安全確保について知識を深める。	玉置 大輔
15	前期	・ 中間テスト③	・ 今まで学習した内容を確認する。	玉置 大輔
16	前期	・ 医療法について理解する。③	・ 病院、診療所及び助産所について知識を深める。	玉置 大輔
17	前期	・ 本試験とフィードバック	・ 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。	
成績評価方法		3回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科・3学年
科目名	基礎柔道整復学Ⅳ
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	2単位（34時間） 前期
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）・整形外科学

授業概要と目的
実務経験のある柔道整復師より、主に柔道整復学の復習を行いながら、それに付随する他の科目についても復習を行っていく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	骨折総論① 病的骨折について	骨折総論の中で特に病的骨折について問い、局所的疾患の特徴、発生年齢、予後などを説明することができる。	鈴木
2	前期	骨折総論② 開放性骨折について	骨折総論の中で特に開放性骨折について問い、柔道整復師としての対応や、患者の全身症状、開放性骨折による感染症について説明することができる。	鈴木
3	前期	骨折総論③ 合併症について	骨折総論の中で特に骨折による合併症について問い、発生時期による分類、患者の症状、特有の症状、発生原因などを説明することができる。	鈴木
4	前期	骨折各論 鎖骨骨折について①	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、鎖骨の解剖、概説、症状を説明することができる。	鈴木
5	前期	骨折各論 鎖骨骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木

6	前期	骨折各論 上腕骨外科頸骨折について①	国家試験での出題頻度が高く、高齢者に発生しやすい骨折の一つであるため、上腕骨の解剖、概説、症状、内側型、外側型の違いについて説明することができる	鈴木
7	前期	骨折各論 上腕骨外科頸骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
8	前期	確認テスト	1～7回目までの内容の確認テスト	鈴木
9	前期	テストの復習 骨折各論 上腕骨顆上骨折について	テストの復習 国家試験での出題頻度が高く、小児に発生しやすい骨折の一つであるため、小児骨折の特徴、整復時の注意点、後遺症について説明することができる。	鈴木
10	前期	骨折各論 モンテギア骨折について	脱臼骨折であるモンテギア骨折は整復順序や固定肢位、神経損傷による症状が国家試験に出題されることがあるので、モンテギア骨折について説明することができる。	鈴木
11	前期	骨折各論 上腕骨外顆骨折	上腕骨顆上骨折に次いで発生頻度が高いと言われている上腕骨外顆骨折、国家試験でも骨片の転位や後遺症について問われることが多いので、症状、整復法、固定法、後遺症を説明することができる。	鈴木
12	前期	骨折各論 橈骨遠位端骨折	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、手関節の解剖、概説、症状を説明することができる。	鈴木
13	前期	骨折各論 橈骨遠位端骨折	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
14	前期	骨折各論 舟状骨骨折	手根骨骨折の中でも発生頻度が高く、他の外傷の合併症としても問われることが多いので、概説、症状、固定法を説明することができる。	鈴木

15	前期	骨折各論 手指の骨折	骨折の部位によって筋の作用による特有の変形肢位があるため、それを理解し、整復法、固定法を説明することができる。	鈴木
16	前期	1～15 までの確認テスト	確認テスト	鈴木
17	前期	テストの見直し	テストの見直し	鈴木
成績評価方法		試験（2回）による成績（100点）により評価する。		
準備学習など		教科書に沿って作成したサブノートを使用して授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。		

学科・年次	柔道整復科・3 学年
科目名	基礎柔道整復学Ⅴ
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	2 単位（34 時間）
学習方法	主に講義による
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（全国柔道整復学校協会編・南江堂）・整形外科

授業概要と目的
実務経験のある柔道整復師より柔道整復学の復習を行いながら、それに付随する他の科目についても復習を行っていく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	後期	骨折各論 肘内障について	臨床の現場でもよく見る疾患の一つで、幼小児に起こる特徴的な疾患であるため症状、整復法について説明することができる。	鈴木
2	後期	骨折各論 上腕骨骨幹部骨折について①	国家試験でも出題されることが多々あり、骨折場所により転位や固定方法が異なるので違いを理解し説明することができる。	鈴木
3	後期	骨折各論 上腕骨骨幹部骨折について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
4	後期	脱臼各論 肩鎖関節脱臼について①	国家試験でも出題頻度が高く、臨床の現場でもよく見る疾患の一つであるため、鎖骨の解剖、概説、症状を説明することができる。	鈴木
5	後期	脱臼各論 肩鎖関節脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木

6	後期	脱臼各論 肩関節脱臼について①	国家試験での出題頻度が高く、脱臼頻度の高い疾患であるため、上腕骨の解剖、概説、症状、ついて説明することができる	鈴木
7	後期	脱臼各論 肩関節脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
8	後期	確認テスト	1～7回目までの内容の確認テスト	鈴木
9	後期	テストの復習 脱臼各論 肘関節後方脱臼について①	テストの復習 国家試験での出題頻度が高い疾患の一つであるため、症状、整復時の注意点、後遺症について説明することができる。	鈴木
10	後期	脱臼各論 肘関節後方脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
11	後期	脱臼各論 手指の脱臼について①	国家試験でも出題されることが多々あるため、症状、整復時の注意点などを説明することができる。	鈴木
12	後期	脱臼各論 手指の脱臼について②	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
13	後期	骨折各論 下腿骨幹部骨折について	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木
14	後期	骨折各論 肋骨骨折について	認定実技でも出題される疾患であるため、整復法、固定法、後療法について説明することができる。	鈴木

15	後期	骨折・脱臼総論 まとめ復習	骨折時の固有症状、脱臼時の固有症状、後遺症や発生年齢などをこれまで学習した疾患に関連させて説明することができる。	鈴木
16	後期	1～15 までの確認テスト	確認テスト	鈴木
17	後期	テストの見直し	テストの見直し	鈴木
成績評価方法		試験（2回）による成績（100点）により評価する。		
準備学習など		教科書に沿って作成したサブノートを使用して授業を行う。講義が終わっても国家試験対策の資料として活用できる。		



学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学VI
担当者	玉置 大輔
単位数(時間数)	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・一般臨床医学・外科学概論)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において骨折を中心に行ってはいくが、途中にて一般臨床医学や外科学概論に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折総論①</li> <li>骨損傷の概説、分類を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分類について理解し、性状による分類・程度による分類・方向による分類について説明できる。</li> </ul>	玉置 大輔
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折総論②</li> <li>各分類と骨折の症状について理解する。</li> <li>外科学概論について創傷について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分類について理解し、数による分類・外創との分類・外力による分類が説明出来る。一般外傷症状が説明出来る。</li> <li>創傷の種類やバイタルサインについて説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折総論③</li> <li>骨折の固有症状について理解する。</li> <li>一般症状について一般臨床医学記載の一般症状について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折の固有症状について説明が出来る。</li> <li>一般臨床医学における、視診における姿勢や体型における疾患の特徴が説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
4	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折総論④</li> <li>骨折の合併症や小児・高齢者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各合併症の詳細について説明出来る。</li> <li>小児・高齢者の骨折の特徴、治癒の</li> </ul>	玉置 大輔

		の骨折を理解する。	状態について説明出来る。	
5	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
6	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折① 各骨折について理解する。</li> <li>一般臨床医学における触診を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、鎖骨骨折の概説・特徴を理解し、肺尖部の損傷を含め、一般臨床医学としての触診を交えて説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
7	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折② 各骨折について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、上腕骨外科頸骨折の概説・特徴について説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
8	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折③ 各骨折について理解する。</li> <li>外科学概論より各手術方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、上腕骨顆上骨折の分類・概説・特徴について説明が出来る。</li> <li>骨折の際にも観血療法の適応の疾患があるが、その中でも外科学概論より手術法を学び、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
9	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折④ 各骨折について理解する。</li> <li>一般臨床医学における生命徴候を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、橈骨遠位端部骨折の種類・概説・症状について説明出来る。</li> <li>一般臨床医学における脈状についての知識を学び、説明が出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
10	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
11	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折⑤ 各骨折について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、中手骨骨折の中でもボクサー骨折、ベネット骨折についての概説・特徴を学び、説明が出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
12	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折⑥ 各骨折について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、基節骨・中節骨骨折についての概説・特徴を学び、説明が出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
13	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の骨折⑦ 各骨折について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、末節骨骨折・マレットフィンガーについての概説・特徴を</li> </ul>	玉置 大輔

			学び、説明が出来る。	
14	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下肢の骨折① 各骨折について理解する。</li> <li>• 一般臨床医学より異常歩行を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、大腿骨頸部内側型骨折について概要を理解・説明できる。</li> <li>• 一般臨床医学における異常歩行について学び、説明が出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
15	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中間テスト③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今まで学んだ内容を確認する。また試験後に解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
16	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験前の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。</li> </ul>	玉置 大輔
17	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験とフィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。</li> </ul>	玉置 大輔
成績評価方法		3回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学Ⅶ
担当者	玉置 大輔
単位数(時間数)	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・解剖学・運動学)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において脱臼を中心に行ってはいくが、途中にて解剖学や運動学に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱臼総論①</li> <li>脱臼の概説・分類を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分類について理解し、性状・関節面相互・数・外力と各分類について学び説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
2	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱臼総論②</li> <li>各特徴について理解する。</li> <li>解剖学より関節の構造について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般症状や固有症状、合併症・整復障害について説明出来る。</li> <li>関節の基本構造を学び、構成する軟部組織・運動について説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
3	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱臼総論③</li> <li>治療法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱臼の整復法について学び、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
4	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>顎部の脱臼</li> <li>顎関節前方脱臼について理解する。</li> <li>運動学の梃子について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、顎関節脱臼の分類・特徴を理解し、説明出来る。</li> <li>運動様式である梃子についてどの運動が該当するか説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
5	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔

6	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼① 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、胸鎖関節脱臼の概説・特徴を理解し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
7	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼② 各脱臼について理解する。</li> <li>・ 関節の面における分類と運動軸について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、肩鎖関節脱臼の概説・分類・特徴を理解し、説明出来る。</li> <li>・ 各関節の面と運動軸について解剖学と運動学を交えながら復習を行い、理解し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
8	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼③ 各脱臼について理解する。</li> <li>・ 肩関節周囲の筋について復習を行い理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、肩関節脱臼の分類・特徴について理解し、説明出来る。</li> <li>・ 肩関節周囲の筋の起始・停止部・作用について解剖学と運動学を交えて講義を行い、特に運動学特有である肩甲骨の動きに対する筋について学び、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
9	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼④ 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、肩関節前方脱臼の概説・特徴を理解し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
10	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間テスト②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
11	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼⑤ 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、肩関節の後方・下方・上方脱臼について説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
12	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼⑥ 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、反復性肩関節脱臼について説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
13	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の脱臼⑦ 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、前腕両骨後方脱臼の概説・特徴が説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔

14	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上肢の脱臼⑧ 各脱臼について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、前腕両骨前方・側方開排脱臼、肘内障の概説・特徴が説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
15	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中間テスト③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
16	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験前の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。</li> </ul>	玉置 大輔
17	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験</li> <li>• フィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。</li> </ul>	玉置 大輔
成績評価方法		3回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学Ⅷ
担当者	玉置 大輔
単位数(時間数)	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・整形外科学・リハビリテーション概論)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において軟部組織損傷を中心に行ってはいくが、途中にて整形外科学・リハビリテーション概論に関する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・ 軟損総論① 各軟部組織について理解する。	・ 筋の構造や損傷の分類、治癒機序について説明出来る。	玉置 大輔
2	前期	・ 軟損総論② 各軟部組織について理解する。	・ 腱の構造や損傷の分類、治癒機序について説明出来る。	玉置 大輔
3	前期	・ 軟損総論③ 各軟部組織について理解する。 ・ 徒手筋力検査について理解する。	・ 神経の構造や分類について説明出来る。 ・ 神経疾患の症状の確認を行う徒手筋力検査について整形・リハの分野を考察し、説明出来る。	玉置 大輔
4	前期	・ 軟損総論④ 各軟部組織について理解する。	・ 整形・リハ医学の分野より中枢神経・末梢神経損傷の症状の特徴を理解し、説明出来る。 ・ 神経損傷の治癒機序について説明出来る。	玉置 大輔

5	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
6	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価 各項目を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問診の進め方としての注意点・評価の流れが説明出来る。</li> <li>施術録の取り扱いについて説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
7	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療法 各項目を理解する。</li> <li>整形外科における手術に用いる器具について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軟部組織損傷における RICE 処置について説明出来る。</li> <li>固定法の目的・後療法における手技療法について説明出来る。</li> <li>整形外科における関節の手術法やその部品について説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
8	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理療法 各物理療法について理解する。</li> <li>リハビリテーション医学の内容との相違を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気療法について説明出来る。</li> <li>温熱療法について柔道整復学記載の温熱療法の分類とリハビリテーション医学記載の温熱療法の分類の相違を覚え、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
9	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理療法 各物理療法について理解する。</li> <li>リハビリテーション医学の内容を踏まえ理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寒冷療法や牽引療法について説明出来る。</li> <li>牽引療法の詳細に関してはリハビリテーション医学において記載されているので、踏まえて説明出来るようにする。</li> </ul>	玉置 大輔
10	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間テスト②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
11	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>体幹の軟損 各疾患について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、腰椎椎間板ヘルニアについて柔道整復学にて必要な内容と整形外科にて必要な内容を考察し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
12	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢の軟損① 各疾患について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、肩腱板損傷について柔道整復学にて必要な内容と整形外科・リハビリテーション医学にて必要な内容を考察し説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔



13	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢の軟損② 各疾患について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、上腕二頭筋損傷について柔道整復学にて必要な内容と整形外科・リハビリテーション医学にて必要な内容を考察し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
14	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下肢の軟損① 各疾患について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修問題として出題率の高い疾患を中心に講義を行い、膝側副靭帯損傷について柔道整復学にて必要な内容と整形外科・リハビリテーション医学にて必要な内容を考察し、説明出来る。</li> </ul>	玉置 大輔
15	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間テスト③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。</li> </ul>	玉置 大輔
16	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本試験前の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。</li> </ul>	玉置 大輔
17	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本試験</li> <li>・ フィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。</li> </ul>	玉置 大輔
成績評価方法		3回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復科 3年
科目名	基礎柔道整復学IX
担当者	玉置 大輔
単位数(時間数)	2単位(34時間 17コマ)
学習方法	講義(座学)個人並びにグループ実習
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修教科書(柔道整復理論・関係法規・社会保障と柔道整復師の職業倫理)

授業概要と目的
この科目では3年次における国家試験出題基準に基づき、柔道整復学を中心に講義を進行していく。またその過程において概要及び歴史について学び、途中にて関係法規、職業倫理一に関与する内容も行っていく。その際には柔道整復師として、柔道整復の施術所等で臨床経験のある者が、その経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・ 柔道整復と柔道 柔道整復師の歴史について理解する。	・ 柔道整復師における武道の精神とともに柔道の関係性について知識を深める。また国家試験出題基準である柔道の歴史について理解する。	玉置 大輔
2	後期	・ 柔道整復と柔道 柔道の礼法・坐礼について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道における礼法、坐礼の方法について再度確認し遅滞なく行えるようにする。	玉置 大輔
3	後期	・ 柔道整復と柔道 柔道の武道の精神、技について理解する。	・ 国家試験出題基準である、嘉納治五郎が残した精力善用、自他共栄の言葉や武道の精神である「道」「禅」「行」等について把握する。	玉置 大輔
4	後期	・ 柔道整復と柔道 柔道の前回り受け身と技について理解する。	・ 前回り受け身の動作を解析し、言葉として説明できるようにする。 ・ 技の種類について知識を深める。	玉置 大輔
5	後期	・ 中間テスト①	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	玉置 大輔

6	後期	・ 柔道整復師と国民医療費の関連について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師として必要な知識として国民医療費の現状について知識を深める。	玉置 大輔
7	後期	・ 柔道整復師と健康保険の関連について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師に関わる健康保険の種類・内容について知識を深める。	玉置 大輔
8	後期	・ 柔道整復師と療養費について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の療養費の現状について知識を深める。	玉置 大輔
9	後期	・ 柔道整復師と受領委任払い制度について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の療養費における受領委任払いの仕組みについて知識を深める。	玉置 大輔
10	後期	・ 中間テスト②	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	玉置 大輔
11	後期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について関係法規にて記載される柔道整復師法について知識を深める。	玉置 大輔
12	後期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について関係法規に記載される欠格事由や罰則について知識を深める。	玉置 大輔
13	後期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について記載される関係法規について施術所や広告について知識を深める。	玉置 大輔
14	後期	・ 柔道整復師の業務範囲について理解する。	・ 国家試験出題基準である柔道整復師の業務範囲について記載される関係法規について法の体系について知識を深める。	玉置 大輔
15	後期	・ 中間テスト③	・ 今まで学んだ内容を確認する。また試験後にて解説を行い、理解を深める。	玉置 大輔
16	後期	・ 本試験前の復習	・ 1～15 コマにて学んだ内容の復習を行う。	玉置 大輔

17	後 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>本試験とフィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本試験を振り返り、解説を行い、国家試験において何が足りないのか考察する。</li> </ul>	玉置 大輔
成績評価方法		3回の中間テストと授業始めに行う確認テストを平均し、4割を反映する。本試験は100点満点中6割を反映し合計する。		
準備学習など		国家試験にちなんだ内容を行う予定であり、必修項目を中心に講義を進めることから常日頃より必修として出題される内容を復習する必要がある。		

学科・年次	柔道整復学科 3 学年
科目名	柔整実技 IA
担当者	若月 康次
単位数 (時間数)	1 単位 (34 時間 17 コマ 前期)
学習方法	実技 (認定実技・骨折の整復と固定法・軟部組織損傷の固定法)
教科書・参考書	柔道整復学・実技編および整形外科学 (全国柔道整復協会監修) など

授業概要と目的
認定実技試験に向けて骨折実技 (整復法・固定法)、軟損実技 (固定法) を学ぶ。臨床経験のある教員が骨折の整復法、固定法をデモンストレーションし、その後グループワークを行う。認定実技試験に必要な技能を口頭で説明しながらできるようにする

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	鎖骨骨折の固定法を学ぶ	鎖骨骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
2	前期	上腕骨骨幹部骨折の固定法を学ぶ	上腕骨骨幹部骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
3	前期	橈骨遠位端骨折の固定法を学ぶ	橈骨遠位端骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
4	前期	第 5 中手骨頸部骨折の固定法を学ぶ	第 5 中手骨頸部骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
5	前期	肋骨骨折の固定法を学ぶ	肋骨骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
6	前期	下腿骨骨幹部骨折の固定法を学ぶ	下腿骨骨幹部骨折の固定法が口頭で説明しながらできるようにになる	若月 康次
7	前期	骨折実技の復習	上記の 6 つの実技が制限時間内にできるように反復練習する	若月 康次
8	前期	骨折実技の復習	上記の 6 つの実技が制限時間内にできるように反復練習する	若月 康次
9	前期	骨折実技の復習	上記の 6 つの実技が制限時間内にできるように反復練習する	若月 康次
10	前期	骨折実技・固定法 前期のまとめと試験	認定実技試験の模擬試験を行い本番の雰囲気になれる	若月 康次
11	前期	鎖骨骨折の理論及び整復法を学	鎖骨骨折の整復法が口頭で説明しながらで	若月 康次

		ぶ	きるようになる。 鎖骨骨折の基礎知識をつけ口頭試問に答えられるようになる	
12	前期	上腕骨外科頸外転型骨折の理論及び整復法を学ぶ	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法が口頭で説明しながらできるようになる。 上腕骨外科頸外転型骨折の基礎知識をつけ口頭試問に答えられるようになる	若月 康次
13	前期	コーレス骨折の理論及び整復法を学ぶ	コーレス骨折の整復法が口頭で説明しながらできるようになる。 コーレス骨折の基礎知識をつけ口頭試問に答えられるようになる	若月 康次
14	前期	骨折実技の復習	上記の3つの実技が制限時間内にできるように反復練習する	若月 康次
15	前期	骨折実技の復習	上記の3つの実技が制限時間内にできるように反復練習する	若月 康次
16	前期	骨折実技・整復法と口頭試問 前期のまとめと試験	認定実技試験の模擬試験を行い本番の雰囲気になれる	若月 康次
17	前期	認定実技の復習②	認定実技試験の評価項目が口頭で説明しながらできるようになる	若月 康次
成績評価方法		実技試験		
準備学習など		白衣、実習靴、実技バッグが必須です。必ず守ってください		

学科・年次	柔道整復学科 3学年
科目名	柔整実技 IB
担当者	若月 康次
単位数（時間数）	1単位（34時間 17コマ）
学習方法	講義（座学、画像学習）
教科書・参考書	整形外科学（全国柔道整復協会監修）など

授業概要と目的
実務経験のある柔道整復師から整形外科疾患の重要ポイントを復習する

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	感染性骨関節疾患について学ぶ	急性化膿性骨髄炎、慢性化膿性骨髄炎 ブロディー骨膿瘍、骨関節結核について理解し説明できる	若月 康次
2	後期	悪性骨腫瘍について学ぶ	骨肉腫、ユーイング肉腫、骨髄腫、癌骨転移について理解し説明できる	若月 康次
3	後期	良性骨腫瘍について学ぶ	骨巨細胞腫、骨軟骨腫、内軟骨腫、孤立性骨嚢腫、線維性骨異形成症について理解し説明できる	若月 康次
4	後期	軟部腫瘍について学ぶ	悪性軟部腫瘍・良性軟部腫瘍について理解し説明できる	若月 康次
5	後期	骨関節疾患① 変形性関節症、関節リウマチについて学ぶ	変形性関節症、関節リウマチの成因、病態 症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
6	後期	骨関節疾患② 痛風、偽痛風、血友病性関節症について学ぶ	痛風、偽痛風、血友病性関節症の成因、病態、 症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
7	後期	骨関節疾患③ 神経病性関節症、その他の関節炎について学ぶ	神経病性関節症、その他の関節炎の成因、 病態、症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
8	後期	骨関節疾患④ 骨粗鬆症について学ぶ	骨粗鬆症の成因、病態、症状の特徴、画像 診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次

9	後期	骨系統疾患① 軟骨無形成症、モルキオ症候群、骨形成不全症について学ぶ	軟骨無形成症、モルキオ症候群、骨形成不全症の病因、病態、症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
10	後期	骨系統疾患② 大理石骨病、マルファン症候群、多発性神経鞘腫について学ぶ	大理石骨病、マルファン症候群、多発性神経鞘腫の病因、病態、症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
11	後期	骨系統疾患③ くる病、下垂体機能不全症、パジェット病について学ぶ	くる病、下垂体機能不全症、パジェット病の病因、病態、症状の特徴、画像診断の違い、治療法が説明できる	若月 康次
12	後期	四肢循環障害①（動脈の異常） 末梢動脈疾患、レイノー病について学ぶ	末梢動脈疾患、レイノー病の病態、症状の特徴、治療法が説明できる	若月 康次
13	後期	四肢循環障害②（静脈の異常） 深部静脈血栓、静脈瘤について学ぶ	深部静脈血栓、静脈瘤の病態、症状の特徴、治療法が説明できる	若月 康次
14	後期	全身性神経筋疾患① 脳性麻痺、ポリオ、脊髄癆について学ぶ	脳性麻痺、ポリオ、脊髄癆の病態、症状の特徴、治療法が説明できる	若月 康次
15	後期	全身性神経筋疾患② 筋萎縮性側索硬化症、CMT 病、平山病、進筋ジスについて学ぶ	筋萎縮性側索硬化症、CMT 病、平山病、進筋ジスの病態、症状の特徴、治療法が説明できる	若月 康次
16	後期	後期のまとめと試験	整形外科的疾患の基礎知識について理解できる	若月 康次
17	後期	整形外科画像の理解	整形外科画像（X-P、CT、MRI、超音波）をみて理解し説明ができる	若月 康次
成績評価方法		小テスト（50%）＋定期試験（50%）		
準備学習など		座学では単元が終了するごとに（予告して）小テストを実施します。成績評価に直接結びつきますので休まないようにすることが大切です。		



学科・年次	柔道整復科 3年生
科目名	柔整実技 I C
担当者	鈴木 雅夕
単位数 (時間数)	1 単位 (34 時間 前期)
学習方法	実技および講義
教科書・参考書	柔道整復学・理論編 (公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂) 柔道整復学・実技編 (公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂) 包帯固定学 (公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂)

授業概要と目的
講師が接骨院での経験を踏まえ、代表的な傷病についての知識や技能を指導する。柔道整復師に必要な、診断のための知識や検査法などを指導するほか、技術的なものだけではなく、実践的に負傷者への安全で愛護的な対応など、骨折、脱臼、軟部組織損傷の代表的な傷病を課題として、診断や整復、徒手検査等を中心に、実際に安全に行うためにはどのようにすべきかの、知識と技能を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	1. ガイダンス 骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する診断に必要な知識、技能を理解する。	1. ガイダンスにより骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する診断に必要な知識、技能について、目標を知ってもらう。 また、負傷者に対する注意事項など、実践的な知識を知ってもらう。	鈴木 雅夕
2	前期	1. 鎖骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判断ができる。 2. 合併症 (2 次的損傷も含め) などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
3	前期	1. 上腕骨外科頸骨折【転位のある外転型骨折】 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判断ができる。 2. 合併症 (2 次的損傷も含め) などの危険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕

4	前期	1. コーレス骨折【屈曲整復法あ るは引直圧整復法】 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、骨折であることの判 断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危 険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
5	前期	1. 肩関節上方脱臼 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判 断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危 険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
6	前期	1. 肩関節前方脱臼（烏口下脱臼） 【コッヘル法またはヒポクラテ ス法】 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判 断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危 険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
7	前期	1. 肘関節後方脱臼 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判 断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危 険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
8	前期	1. 肘内障 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、脱臼であることの判 断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危 険性を知る。 3. 安全で的確な整復をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。 5. 小児特有の疾患について学ぶ。	鈴木 雅夕
9	前期	1. 肩腱板損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技 能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断がで きる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危	鈴木 雅夕

			<p>険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	
10	前期	<p>1. 上腕三頭筋最頭腱損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
11	前期	<p>1. ハムストリング損傷（肉ばなれ）</p> <p>2. 大腿四頭筋打撲 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
12	前期	<p>1. 膝関節側副靭帯損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
13	前期	<p>1. 膝関節十字靭帯損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
14	前期	<p>1. 膝関節半月板損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技</p>	<p>1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。</p>	鈴木 雅夕

		能を理解する。	2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	
15	前期	1. 下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。  2. 足関節外側靭帯損傷 傷病ごとに診断に必要な知識、技能を理解する。	1. 鑑別診断も含め、損傷部位の判断ができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な徒手検査をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
16	前期	1. 試験（評価）	整復や軟部組織損傷に対する徒手検査に対するまとめとして、筆記試験を行い、整復、固定についての説明ができることを確認する。	鈴木 雅夕
17	前期	1. 実技総括	整復や軟部組織損傷に対する徒手検査のまとめとして、筆記試験を行い、整復、徒手検査についての説明ができることを確認する。	鈴木 雅夕
成績評価方法		筆記試験は、記述式あるいは4択問題にて100点満点での評価をする。あるいは課題の提出により100点満点の評価をする。		
準備学習など		1. 実技の授業ですので、白衣を忘れず、身だしなみには注意を図ってください。 2. 包帯等の実技に使用するものは、自己管理すること、または共有して使用するものについては、丁寧に扱うこと。 3. 練習相手への配慮を忘れず、真摯な態度で臨むこと。		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅡA
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	実習講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師の接骨院での経験を踏まえ、臨床で見かける脱臼の対応について学ぶ。脱臼は骨折に次いで重要な項目であり、脱臼総論の内容も加味しながら各部の脱臼について学んでいきたい。適宜骨折、軟損についても触れていく。認定実技審査の脱臼について学んでいく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・認定実技審査の実施方法について理解する。	1. 認定実技審査が行われる骨折・脱臼・軟損の実施傷病を言うことが出来る。 2. 認定実技審査の合格基準について整復実技、柔道実技とも答えることが出来る。	鬼頭 宏
2	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩関節前方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏
3	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節脱前方臼の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
4	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肘関節後方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏
5	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、実際に整復を行うことが出来る。	鬼頭 宏
6	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩鎖関節上方脱臼についての質問に答えることが出来る。	鬼頭 宏

7	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、実際に整復を行うことができる。	鬼頭 宏
8	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘内障）について理解する。	1. 肘内障の整復について説明し、整復の手順を示すことができる。 2. 肘内障についての質問に答えることができる。	鬼頭 宏
9	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘内障）について理解する。	1. 肘内障の整復について説明し、実際に整復を行うことができる。	鬼頭 宏
10	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことができる。	鬼頭 宏
11	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩関節脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことができる。	鬼頭 宏
12	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことができる。	鬼頭 宏
13	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肘肩関節脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことができる。	鬼頭 宏
14	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（肩鎖関節脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことができる。	鬼頭 宏
15	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（第2指PIP関節脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定について説明し、固定の手順を示すことができる。	鬼頭 宏
16	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技（第2指PIP関節脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことができる。	鬼頭 宏
17	前期	・認定実技審査対象の脱臼実技について理解する。	1. 認定実技審査の脱臼の出題で、整復・固定の出題とも行うことができる。 2. 認定実技審査の脱臼の出題で、口頭質問に対して答えることができる。	鬼頭 宏
成績評価方法		試験の成績により評価する（100%）。		

準備学習など	各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書や配布したプリントを読んでおくことを勧める。整復固定の実技はイメージトレーニングが有効であるので、時間のある時には（特に認定実技科目）イメージトレーニングを行い、次回の実技実習に臨んでほしい。
--------	--

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅡB
担当者	鬼頭 宏
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	実習講義による
教科書・参考書	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
柔道整復師である講師の接骨院での経験を踏まえ、臨床で見かける脱臼の対応について学ぶ。脱臼は骨折に次いで重要な項目であり、脱臼総論の内容も加味しながら各部の脱臼について学んでいきたい。適宜骨折、軟損についても触れていく。また認定実技審査の脱臼についても学んでいく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（顎関節前方脱臼）について理解する。	1. 顎関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 顎関節前方脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
2	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（顎関節前方脱臼）について理解する。	1. 顎関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
3	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩鎖関節上方脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩鎖関節上方脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
4	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩鎖関節上方脱臼）について理解する。	1. 肩鎖関節上方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
5	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩関節前方脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肩関節前方脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏



6	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肩関節前方脱臼）について理解する。	1. 肩関節前方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
7	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肘関節後方脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 肘関節後方脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
8	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（肘関節後方脱臼）について理解する。	1. 肘関節後方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
9	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（月状骨掌側脱臼）について理解する。	1. 月状骨掌側脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 月状骨掌側脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
10	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（月状骨掌側脱臼）について理解する。	1. 月状骨掌側脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
11	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（第1指MP関節背側脱臼）について理解する。	1. 第1指MP関節背側脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 第1指MP関節背側脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
12	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（第1指MP関節背側脱臼）について理解する。	1. 第1指MP関節背側脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
13	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（第2指PIP関節背側脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 第2指PIP関節背側脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
14	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（第2指PIP関節背側脱臼）について理解する。	1. 第2指PIP関節背側脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏
15	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（股関節後方脱臼）について理解する。	1. 股関節後方脱臼の整復について説明し、整復の手順を示すことが出来る。 2. 股関節後方脱臼の整復について実際に行うことが出来る。	鬼頭 宏
16	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技（股関節後方脱臼）について理解する。	1. 股関節後方脱臼の固定について説明し、実際に固定を行うことが出来る。	鬼頭 宏

17	後期	・臨床でよくみられる脱臼実技について理解する。	1. 臨床でよくみられる脱臼実技の整復について実際に行うことができる。 2. 臨床でよくみられる脱臼実技の固定について実際に行うことができる。	鬼頭 宏
績評価方法		試験の成績により評価する（100％）。		
準備学習など		各項目を学習した後、確認するために当日中に教科書や配布したプリントを読んでおくことを勧める。整復固定の実技はイメージトレーニングが有効であるので、時間のある時には（特に認定実技科目）イメージトレーニングを行い、次回の実技実習に臨んでほしい。		

学科・年次	柔道整復科 3年生
科目名	柔整実技ⅡC
担当者	鈴木 雅夕
単位数（時間数）	1単位（17コマ34時間 後期）
学習方法	実技および講義
教科書・参考書	柔道整復学・理論編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 柔道整復学・実技編（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂） 包帯固定学（公益社団法人全国柔道整復学校協会編・南江堂）

授業概要と目的
講師が接骨院での経験を踏まえ、代表的な傷病についての知識や技能を指導する。柔道整復師に必要な、固定や傷病の処置のための知識や対処法などを指導するほか、技術的なものだけではなく、実践的に負傷者への安全で愛護的な対応など、骨折、脱臼、軟部組織損傷の代表的な傷病を課題として、固定、テーピング等を中心に、実際に安全に行うためにはどのようにするべきかの、知識と技能を身につけることを目標とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	後期	1. ガイダンス 骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定等に関する知識、技能を理解する。	1. ガイダンスにより骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定等に必要な知識、技能について、目標を知ってもらう。 また、負傷者に対する注意事項など、実践的な知識を知ってもらう。	鈴木 雅夕
2	後期	1. 鎖骨骨折【リング固定又は8字帯もしくは Sayre テープ固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕
3	後期	1. 上腕骨骨幹部骨折【ミッドドルフ三角副手固定】 傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。	1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。 2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。 3. 安全で的確な固定をすることができる。 4. 負傷者への配慮ができる。	鈴木 雅夕

4	後期	<p>1. コーレス骨折【クラーメル副子・三角巾固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
5	後期	<p>1. 第5指中手骨頸部骨折【アルミ副手掌側固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p> <p>2. 手第2指PIP関節背側脱臼【アルミ副手背側固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
6	後期	<p>1. 下腿骨骨幹部骨折【クラーメル副手固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
7	後期	<p>1. 肋骨骨折【さらしと厚紙副手固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
8	後期	<p>1. 肩鎖関節上方脱臼【テ…ブ固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕

9	後期	<p>1. 肩関節前方脱臼【局所副子・三角巾固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
10	後期	<p>1. 肘関節後方脱臼【クラメール副子・三角巾固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
11	後期	<p>1. アキレス腱断裂【クラメール副手固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
12	後期	<p>1. 足関節外側靭帯損傷【局所副手固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
13	後期	<p>1. 膝関節内側側副靭帯損傷【Xサポートテープ固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
14	後期	<p>1. 足関節外側靭帯損傷【バスケットウィーブ固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料を的確に選ぶことができる。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性を知る。</p>	鈴木 雅夕

		<p>2. 足関節外側靭帯損傷【フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定】</p> <p>傷病ごとに固定に必要な知識、技能を理解する。</p>	<p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	
15	後期	<p>1. 固定時及びテーピング固定時の注意事項</p> <p>固定材料ごとに、その取扱いの違いを理解する。</p>	<p>1. 固定に必要な材料に対する使用する際の注意しなければならないことを理解する。</p> <p>2. 合併症（2次的損傷も含め）などの危険性に配慮した材料に選択ができるか。</p> <p>3. 安全で的確な固定をすることができる。</p> <p>4. 負傷者への配慮ができる。</p>	鈴木 雅夕
16	後期	<p>1. 試験（評価）</p>	<p>固定やテーピングに対するまとめとして、筆記試験を行い、固定、テーピングについての説明ができることを確認する。</p>	鈴木 雅夕
17	後期	<p>1. 実技総括</p>	<p>固定やテーピングに対するまとめとして、筆記試験を行い、整固定、テーピングについての説明ができることを確認する。</p>	鈴木 雅夕
成績評価方法		<p>筆記試験は、記述式あるいは4択問題にて100点満点の評価をする。あるいは課題の提出により100点満点の評価をする。</p>		
準備学習など		<p>1. 実技の授業ですので、白衣を忘れず、身だしなみには注意を図ってください。</p> <p>2. 包帯等の実技に使用するものは、自己管理すること、または共有して使用するものについては、丁寧に扱うこと。</p> <p>3. 練習相手への配慮を忘れず、真摯な態度で臨むこと。</p>		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅢA
担当者	若月 康次
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
<p><b>【何を学ぶか / Outline and objectives】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務経験のある柔道整復師から柔道整復師にとって欠かせない、触察法と運動療法（ストレッチング、筋収縮）について実技を通じて学ぶ。</li> <li>・解剖学、主に筋の起始・停止の復習を行う。</li> </ul> <p><b>【到達目標 / Goal】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器の解剖学的知識を、さらに立体感をもって理解する。</li> <li>・パートナーの身体を用いて、互いに実技を行うことにより、タッチや力加減等の言葉では伝えにくい部分を理解する。</li> <li>・効率的かつ愛護的な運動療法を理解する。</li> </ul> <p><b>【授業の進め方 / Method】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水性ペンを用いてパートナーの体表に、筋や骨、靭帯等を描き、3D構造を理解していく。</li> <li>・筋の起始・停止を理解し、最も効率的に筋を引き伸ばせるか、実技を通じて伸張法を学ぶ。</li> <li>・また、最も効率的に筋を収縮することが可能な角度について、実技を通じて学ぶ。</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	ガイダンス 大殿筋の触察① ・大殿筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 当講義での学習方法を理解する。 2. 大殿筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 3. パートナーの大殿筋を正しく触察できる。	若月 康次
2	前期	大殿筋の触察② ・大殿筋の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチングが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
3	前期	中殿筋・梨状筋の触察① ・中殿筋・梨状筋の起始・停止・	1. 中殿筋・梨状筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。	若月 康次

		ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	2. パートナーの中殿筋・梨状筋を正しく触察できる。	
4	前期	中殿筋・梨状筋の触察② ・中殿筋・梨状筋の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
5	前期	ハムストリングスの触察① ・ハムストリングスの起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. ハムストリングスを構成する各筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーのハムストリングスを正しく触察できる。	若月 康次
6	前期	ハムストリングスの触察② ・ハムストリングスの解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
7	前期	大腿四頭筋の触察① ・大腿四頭筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 大腿四頭筋を構成する各筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの大腿四頭筋を正しく触察できる。	若月 康次
8	前期	大腿四頭筋の触察② ・大腿四頭筋の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
9	前期	下腿後面の筋の触察 ・下腿後面の筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 下腿後面の筋を構成する各筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの下腿後面の筋を正しく触察できる。	若月 康次
10	前期	下腿前面の筋の触察 ・下腿前面の筋の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
11	前期	足関節の筋および靭帯の触察 ・足関節の筋および靭帯の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 足関節の筋および靭帯の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの足関節の筋および靭帯を正しく触察できる。	若月 康次
12	前期	足関節の運動療法 ・足関節の筋および靭帯の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
13	前期	前腕屈筋の触察①	1. 前腕屈筋を構成する各筋の起始・停止・	若月 康次



		・前腕屈筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの前腕屈筋を正しく触察できる。	
14	前期	前腕屈筋の触察② ・前腕屈筋の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
15	前期	前腕伸筋の触察 ・前腕伸筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 前腕伸筋を構成する各筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの前腕伸筋を正しく触察できる。	若月 康次
16	前期	肩部・上腕部の触察① ・肩部・上腕部を構成する筋の起始・停止・ランドマークを触察し、施術に活かせるようにする。	1. 肩部・上腕部を構成する各筋の起始・停止・ランドマークを暗唱できる。 2. パートナーの肩部・上腕部の筋を正しく触察できる。	若月 康次
17	前期	肩部・上腕部の触察② ・肩部・上腕部の解剖学的知識および触察法から得られた情報を運動療法に活かす。	1. 解剖学的に正しい他動的ストレッチが行え、当該筋の柔軟性の評価ができる。 2. 解剖学的に正しく筋収縮を行うことができる。また、指導できる。	若月 康次
評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。 及第点に及ばなかった者には再試験を課す。		
準備学習など		運動器の解剖学について復習をすると理解しやすい。		

学科・年次	柔道整復科 3年次
科目名	柔整実技ⅢB
担当者	若月 康次
単位数（時間数）	1単位（34時間）
学習方法	講義および実技
教科書・参考書	柔道整復学理論編および実技編（全国柔道整復学校協会編、南江堂）

授業概要と目的
<p>【何を学ぶか / Outline and objectives】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務経験のある柔道整復師から、柔整実技ⅢAで学んだ知識を生かし、各外傷の機序、疫学、施術方法とその理論的背景を学ぶ。</li> <li>・超音波エコーの使用法、物理療法機器の適応と使用方法について、座学と実技を通じて学ぶ。</li> <li>・固定材料の使用法について、実技を通じて学ぶ。</li> </ul> <p>【到達目標 / Goal】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各関節に発生する外傷の機序、疫学、施術の理論的背景、施術方法を理解する。</li> <li>・各施術機器、固定材料の使用感や使用方法を理解する。</li> </ul> <p>【授業の進め方 / Method】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座学形式にて、外傷発生のメカニズムや、疫学、理論的背景を学び、実技を通じて施術方法を学ぶ。</li> <li>・物理療法機器の適応と使用方法について、座学と実技を通じて学ぶ。</li> <li>・超音波エコーを用い、内部構造を理解した上で、テーピング、包帯、キャスト材等各固定材料を用いた実技を行う。</li> </ul>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	後期	ガイダンス 筋腱および靭帯等の軟部組織損傷についての総論 ・各軟部組織の相違点の理解	1. 当講義での学習方法を理解する。 2. 各軟部組織の組織学的特徴、治癒過程について理解する。	若月 康次
2	後期	足関節捻挫① ・足関節靭帯損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 足関節靭帯損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 足関節靭帯損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
3	後期	足関節捻挫② ・足関節靭帯損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 足関節靭帯損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次

4	後期	ハムストリングス損傷① ・ハムストリングス損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. ハムストリングス損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. ハムストリングス損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
5	後期	ハムストリングス損傷② ・ハムストリングス損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. ハムストリングス損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次
6	後期	大腿四頭筋損傷① ・大腿四頭筋損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 大腿四頭筋損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 大腿四頭筋損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
7	後期	大腿四頭筋損傷② ・大腿四頭筋損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 大腿四頭筋損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次
8	後期	腰部捻挫① ・腰部捻挫と施術に関する理論的背景の理解	1. 腰部捻挫における機序、疫学を座学で理解する。 2. 腰部捻挫における好発部位の触察ができる。	若月 康次
9	後期	腰部捻挫② ・腰部捻挫と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 腰部捻挫に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次
10	後期	腰部捻挫③ ・腰部捻挫用コルセットの適応と作成法を理解する。	腰部捻挫に適した専用コルセットを作成できる。	若月 康次
11	後期	膝靭帯および半月板損傷① ・膝靭帯および半月板損傷の発生機序とスペシャルテストにおける理論的背景の理解	1. 複雑な膝関節の運動学と外傷の発生機序を座学で理解する。 2. 膝靭帯および半月板損傷におけるスペシャルテストを実技で理解する。	若月 康次
12	後期	膝靭帯および半月板損傷② ・膝靭帯および半月板損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 膝靭帯および半月板損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 膝靭帯および半月板損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
13	後期	膝靭帯および半月板損傷③ ・膝靭帯および半月板損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 膝靭帯および半月板損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次

14	後期	下腿三頭筋損傷① ・下腿三頭筋損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 下腿三頭筋損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 下腿三頭筋損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
15	後期	下腿三頭筋損傷② ・下腿三頭筋損傷と施術に関する理論的背景および施術方法の理解	1. 好発部位について、超音波エコーでの観察が実践できる。 2. 下腿三頭筋損傷に適した施術方法と固定方法が選択できる。	若月 康次
16	後期	肩関節および周囲の損傷① ・肩関節および周囲の損傷の発生機序とスペシャルテストにおける理論的背景の理解	1. 複雑な肩関節の運動学と外傷の発生機序を座学で理解する。 2. 肩靭帯および周囲の損傷におけるスペシャルテストを実技で理解する。	若月 康次
17	後期	肩関節および周囲の損傷② ・肩関節および周囲の損傷と施術に関する理論的背景の理解	1. 肩関節および周囲の損傷における機序、疫学を座学で理解する。 2. 肩関節および周囲の損傷における好発部位の触察ができる。	若月 康次
評価方法		筆記試験および出欠席の状況、実技への参加態度により評価する。 及第点に及ばなかった者には再試験を課す。		
準備学習など		運動器の解剖学について復習をすると理解しやすい。		

学科・年次	柔道整復科 3学年
科目名	柔整実技ⅢC
担当者	北村次郎
単位数（時間数）	1単位（34時間17コマ 後期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ実習
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、リハビリテーション医学、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） 理学療法評価学（金原出版）、診察と手技が見える（メディックメディア）

授業概要と目的
<p>柔整実技ⅢCでは、「身体評価法」の基礎を学習する。「評価に始まり評価に終わる」と称されるほど「身体評価」は柔道整復術を施術し効果を判定するうえで必要不可欠な課題である。</p> <p>評価前に事前に対象者から情報収集を行うところから判定にいたるまでの評価過程（方法論・検査技術）を、整形外来やリハビリテーション科で実務経験のある専任講師が担当する。</p> <p>1学年で学んだ基本的な知識（解剖学・生理学・運動学等）を基に、グループワークを通じて、基本的な人体測定（上下肢長や周径等）や検査方法（ROM、MMT、バイタル測定や腱反射等）の基礎について、臨地実習や柔道整復師国家試験問題に相当する知識を中心に学習する。</p> <p>また、測定、検査を正確に実施し得られた検査結果を正確に記録し、そのデータから身体の現症について評価、考察することを学習する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	後期	1. ガイダンス 身体評価について、評価法（検査法や測定法）の概略を知る。	① 身体評価（検査法・測定法）の実施に関する意義と目的を知る。	北村次郎
2	後期	2. 関節可動域測定について知る。 概論・基礎編	① 関節可動域測定の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 関節可動域の制限因子について説明できる。 ③ 関節の終末感について説明できる。 ④ 測定道具の使用法や注意点について説明できる。 ⑤ 関節角度の表記ができる。	北村次郎
3	後期	3. 関節可動域測定について知る。 上肢（1） デモンストレーション後学生同	① 上肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。	北村次郎

		士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 上肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 上肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。</li> </ul>	
4	後期	4. 関節可動域測定について知る。 上肢（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 上肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</li> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 上肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 上肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。</li> </ul>	北村次郎
5	後期	5. 関節可動域測定について知る。 下肢（1） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</li> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 下肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 下肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。</li> </ul>	北村次郎
6	後期	6. 関節可動域測定について知る。 下肢（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下肢の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</li> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 下肢の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 下肢の関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明ができる。</li> </ul>	北村次郎

7	後期	7. 関節可動域測定について知る。 体幹（1） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体幹の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</li> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 体幹の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 体幹関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明できる。</li> </ul>	北村次郎
8	後期	8. 関節可動域測定について知る。 体幹（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体幹の基本的な関節可動域測定の基礎について意義と目的、注意点などを理解できる。</li> <li>② 患者歴（生活歴・職歴・スポーツ歴等）を聴取できる。</li> <li>③ 体幹の基本的な関節可動域測定について実施できる。</li> <li>④ 体幹関節可動域測定の検査結果から身体の現症について評価、説明できる。</li> </ul>	北村次郎
9	後期	9. 関節可動域測定について知る。 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① これまで学習した身体評価（検査法・測定法）を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。</li> <li>② これまで実施した検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。</li> <li>③ 総合的な評価結果から柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。</li> </ul>	北村次郎
10	後期	10. 徒手筋力検査法について知る。 概論・基礎編	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</li> <li>② 徒手筋力検査法の段階付けを理解できる。</li> <li>③ 対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</li> <li>④ 徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</li> </ul>	北村次郎

11	後期	11. 徒手筋力検査法について知る。 上肢（１） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 上肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</li> <li>② 上肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</li> <li>③ 上肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</li> <li>④ 上肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</li> <li>⑤ 上肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</li> </ul>	北村次郎
12	後期	12. 徒手筋力検査法について知る。 上肢（２） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 上肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</li> <li>② 上肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</li> <li>③ 上肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</li> <li>④ 上肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</li> <li>⑤ 上肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</li> </ul>	北村次郎
13	後期	13. 徒手筋力検査法について知る。 下肢（１） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</li> <li>② 下肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</li> <li>③ 下肢の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</li> <li>④ 下肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</li> <li>⑤ 下肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</li> </ul>	北村次郎
14	後期	14. 徒手筋力検査法について知る。 下肢（２） デモンストレーション後学生同士で実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 下肢の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</li> <li>② 下肢の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</li> <li>③ 下肢の徒手筋力検査法の注意点を説</li> </ul>	北村次郎



			<p>明できる。</p> <p>④ 下肢の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 下肢の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	
15	後期	<p>15. 徒手筋力検査法について知る。</p> <p>頸部・体幹（1）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p>	<p>① 頸部・体幹の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 頸部・体幹の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 頸部・体幹の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 頸部・体幹の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 頸部・体幹の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎
16	後期	<p>16. 徒手筋力検査法について知る。</p> <p>頸部・体幹（1）</p> <p>デモンストレーション後学生同士で実施する。</p>	<p>① 頸部・体幹の基本的な徒手筋力検査法の基礎について意義と目的を理解できる。</p> <p>② 頸部・体幹の対象となる運動に関わる筋の起始、停止、支配神経、髄節レベルを説明できる。</p> <p>③ 頸部・体幹の徒手筋力検査法の注意点を説明できる。</p> <p>④ 頸部・体幹の基本的な徒手筋力検査法について実施できる。</p> <p>⑤ 頸部・体幹の徒手筋力検査の検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎
17	後期	<p>17. これまでのまとめ</p> <p>定期試験</p>	<p>① これまで学習した身体評価（検査法・測定法）を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。</p> <p>② これまで実施した検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。</p> <p>③ 総合的な評価結果から柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。</p>	北村次郎

成績評価方法	<p>成績評価は客観試験 60%、レポート提出・受講態度(実技試験を含む)40% 総合点数を (100%または 100 点) に換算。</p>
準備学習など	<p>柔整セット (メジャー、打腱器、ゴニオメータ等) の持参。 基本的には白衣・実習服の着用を義務付ける (実習を行うにあたり行いやすい恰好として短パンやTシャツなどを適宜認める)。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。</li> <li>② 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。</li> <li>③ 復習を重視しているので確認テスト (小テスト) を複数回行う場合がある。</li> <li>④ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。</li> <li>⑤ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。</li> <li>⑥ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。</li> </ol>

学科・年次	柔道整復科 3学年
科目名	応用柔整実技 I
担当者	北村次郎
単位数（時間数）	1 単位（34 時間 17 コマ 前期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ実習
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、リハビリテーション医学、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学） 理学療法評価学（金原出版）、診察と手技が見える（メディックメディア）

授業概要と目的
<p>応用柔整実技 I では「身体評価」を学習する。「評価に始まり評価に終わる」と称されるほど「身体評価」は柔道整復術を施術し効果を判定するうえで必要不可欠な課題である。情報収集を行い、治療プログラムを勘案し、治療効果の検証や判定などの評価過程（方法論・検査技術）を整形外科やリハビリテーション科で実務経験のある専任講師が担当する。</p> <p>1 学年で学んだ基本的な知識（解剖学・生理学・運動学等）を基に、グループワークを通じて、基本的な人体測定（上下肢長や周径等）や検査方法（バイタルや反射、ROM、MMT 等）について柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。また、得られた検査結果を正確に記録しそのデータから身体の現症について評価、考察することを学習する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	1. ガイダンス 身体評価について、評価法（検査法や測定法）の概略を知る。	② 身体評価（検査法・測定法）の実施に関する意義と目的を知る。	北村次郎
2	前期	2. バイタルについて知る。 意識レベルの評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① JCS や GCS による意識レベルの基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② JCS や GCS による意識レベルの評価をパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ JCS や GCS による意識レベルの結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
3	前期	3. バイタルについて知る。 意識レベルの評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① JCS や GCS による意識レベルの基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② JCS や GCS による意識レベルの評価を	北村次郎

			<p>パートナーに正しく愛護的に実施できる。</p> <p>③ JCS や GCS による意識レベルの結果から身体の現症について評価できる。</p>	
4	前期	<p>4. バイタルについて知る。          血圧の測定と評価（1）          デモンストレーション後、学生同士で実施する。</p>	<p>① 血圧の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。</p> <p>② 血圧の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。</p> <p>③ 血圧の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎
5	前期	<p>5. バイタルについて知る。          血圧の測定と評価（2）          デモンストレーション後、学生同士で実施する。</p>	<p>① 血圧の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。</p> <p>② 血圧の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。</p> <p>③ 血圧の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎
6	前期	<p>6. バイタルについて知る。          脈拍の測定と評価（1）          デモンストレーション後、学生同士で実施する。</p>	<p>① 脈拍の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。</p> <p>② 脈拍の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。</p> <p>③ 脈拍の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎
7	前期	<p>7. バイタルについて知る。          脈拍の測定と評価（2）          デモンストレーション後、学生同士で実施する。</p>	<p>① 脈拍の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。</p> <p>② 脈拍の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。</p> <p>③ 脈拍の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。</p>	北村次郎

8	前期	8. バイタルについて知る。 心拍、SpO2 の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 心拍、SpO2 の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 心拍、SpO2 の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 心拍、SpO2 の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
9	前期	9. バイタルについて知る。 心拍、SpO2 の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	④ 心拍、SpO2 の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ⑤ 心拍、SpO2 の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ⑥ 心拍、SpO2 の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
10	前期	10. バイタルについて知る。 体温の測定と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 体温の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 体温の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 体温の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
11	前期	11. バイタルについて知る。 体温の測定と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 体温の測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 体温の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 体温の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
12	前期	12. バイタルについて知る。 呼吸様式の観察と評価（1） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 呼吸の観察、測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 呼吸の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 呼吸の測定・検査結果から身体の現症	北村次郎

			について評価できる。	
13	前期	13. バイタルについて知る。 呼吸様式の観察と評価（2） デモンストレーション後、学生同士で実施する。	① 呼吸の観察、測定・検査方法の基礎評価について意義と目的を指導者やパートナーに説明できる。 ② 呼吸の測定・検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 呼吸の測定・検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
14	前期	14. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 深部腱反射の検査法と評価（1） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 深部腱反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 深部腱反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 深部腱反射の検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
15	前期	15. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 表在反射・病的反射の検査法と評価（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 病的反射・表在反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 病的反射・表在反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 病的反射・表在反射検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
16	前期	16. 腱反射・表在反射・病的反射について知る。 表在反射・病的反射の検査法と評価（2） デモンストレーション後学生同士で実施する。	① 表在反射の検査方法の基礎について意義と目的を理解できる。 ② 表在反射の検査方法についてパートナーに正しく愛護的に実施できる。 ③ 表在反射検査結果から身体の現症について評価できる。	北村次郎
17	前期	17. これまでのまとめ 定期試験	① これまで学習した身体評価（検査法・測定法）を総合的にみて、意義と目的、注意点を理解できる。 ② これまで実施した検査結果から身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 総合的な評価結果から柔道整復術か	北村次郎

			ら生じる可能性のあるリスクや事故を考察して予防を講じることができる。	
成績評価方法	<p>総合点数を（100%または100点）に換算。  （成績評価は科目試験60%、レポート提出、小試験を40%含む）</p>			
準備学習など	<p>柔整セット（メジャー、打腱器、ゴニオメータ等）の持参。  基本的には白衣・実習服の着用を義務付ける（実習を行うにあたり行いやすい恰好として短パンやTシャツなどを適宜認める）。</p> <p>⑦ 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。  ⑧ 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。  ⑨ 復習を重視しているので確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。  ⑩ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。  ⑪ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。  ⑫ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。</p>			

学科・年次	柔道整復科 3学年
科目名	応用柔整実技Ⅱ
担当者	北村次郎
単位数（時間数）	1単位（34時間17コマ 前期）
学習方法	講義（座学・ビデオ鑑賞・デモンストレーション）、個人ならびにグループ学習、プレゼンテーション
教科書・参考書	公益法人全国柔道整復学校協会監修指定教科書（柔道整復学理論編・実技編、運動学、解剖学、生理学、一般臨床医学）

授業概要と目的
<p>応用柔整実技Ⅱでは、柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に身体構造（上肢・頭頸部・体幹部）や機能解剖、基礎運動学を理解したうえで、運動観察や評価（分析）ならびに障害について学び、疾患（障害）に対する柔道整復学（理論・実技）の適応と鑑別疾患などについて、柔道整復師に必要な知識と見識を身につけることを目的とする。</p> <p>また、柔道整復師として学ばなければいけない認定実技審査項目について臨床における運動器の評価（可動域制限や筋力低下、協調運動障害の原因など）に必要な知識を学習する。また、そのうえで身体の正常運動と病態運動を比較してプレゼンテーションを行う。整形外科外来やリハビリテーション科で実務経験のある柔道整復学専科教員（柔道整復師・理学療法士）が担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	1. ガイダンス ① 運動観察と評価、運動療法の概略を知る。	① 講義の進め方について説明し本講義に関する意義と目的を知る。 ② 基本的な運動療法について説明することができる。	北村次郎
2	前期	2. 四肢と体幹の運動観察と評価 A. 上肢帯の運動と評価について学習する。	① 上肢帯の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
3	前期	3. 四肢と体幹の運動観察と評価 B. 肩関節の運動と評価について学習する。	① 肩関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎



4	前期	4. 四肢と体幹の運動観察と評価 C. 肘関節と前腕の運動と評価 について学習する。	① 肘関節と前腕の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
5	前期	5. 四肢と体幹の運動観察と評価 D. 手関節と手の運動と評価 について学習する。	① 手関節と手の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
6	前期	6. 四肢と体幹の運動観察と評価 E. 股関節の運動と評価 について学習する。	① 股関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
7	前期	7. 四肢と体幹の運動観察と評価 F. 膝関節の運動と評価 について学習する。	① 膝関節の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
8	前期	8. 四肢と体幹の運動観察と評価 G. 足関節と足部の運動と評価 について学習する。	① 足関節と足部の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎

9	前期	9. 四肢と体幹の運動観察と評価 H. 体幹と脊柱の運動と評価 について学習する。	① 体幹と脊柱の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
10	前期	10. 四肢と体幹の運動観察と評価 I. 頚椎、胸椎と胸郭の運動と評価 について学習する。	① 頚椎の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 胸椎と胸郭の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ③ 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ④ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
11	前期	11. 四肢と体幹の運動観察と評価 J. 腰椎、仙椎および骨盤の運動と評価 について学習する。	① 腰椎、仙椎および骨盤の運動に関する原理・理論を知り、対象とする部位の構造と機能を説明することができる。 ② 損傷発生のメカニズムや特定の運動と損傷との関係を説明することができる。 ③ 評価方法や損傷の基本的な治療方針を説明することができる。	北村次郎
12	前期	12. 運動の評価（概説） A. 運動の表示（表し方） B. 関節運動の表示 について学習する。	① 運動表示に関わる基本姿勢や運動（関節可動域表示や測定など）の記載することができる。 ② 身体の基本面、運動軸、関節運動の記載・表現について説明ができる。	北村次郎
13	前期	13. 運動評価の基礎知識 身体運動と力学 A. 身体運動に関する力 B. 人体における単一機械構造 について学習する。 C. 運動の法則 について学習する。 D. 仕事と力学的エネルギー について学習する。	① 身体運動に関与する力について力学の基礎（運動の形、ベクトル、剛体に働く力、運動の法則、単位など）について理解し説明することができる。 ② 身体運動に関与する力について力学の基礎（テコ、滑車と輪軸、力学的有利性など）について理解し説明することができる。 ③ 身体運動に関与する力について力学の基礎（仕事と力学的エネルギーなど）につ	北村次郎

			いて理解し説明することができる。 柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。	
14	前期	14. 運動評価の基礎知識 運動器の構造と機能 A. 骨の構造と機能 B. 関節の構造と機能 C. 骨格筋の構造と機能 について学習する。	① 人体の骨、関節、骨格筋の基本的な構造と機能について理解し説明することができる。 ② 柔道整復師国家試験に相当する知識を中心に学習する。	北村次郎
15	前期	15. まとめ① プレゼンテーション①	① これまで学習した各項目の特徴について、説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を講じることができる。	北村次郎
16	前期	16. まとめ② プレゼンテーション②	① これまで学習した各項目の特徴について、説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を講じることができる。 ④ 総括（質疑応答）	北村次郎
17	前期	17. まとめ③ プレゼンテーション③ 定期試験	① これまで学習した各項目の特徴について、説明できる。 ② また、それらを基に身体の現症について総合的に評価、説明ができる。 ③ 柔道整復術から生じる可能性のあるリスクや事故を考察して基本的な予防策を講じることができる。 ④ 総括（質疑応答）	北村次郎
成績評価方法	総合点数を（100%または100点）に換算。 （成績評価は科目試験60%、レポート提出、小試験を40%含む）			
準備学習など	⑬ 当該項目にあたる教科書や配布資料、参考書等を事前に復讐しておく。 ⑭ 講義中の私語、携帯端末使用は原則禁止する。 ⑮ 復習を重視しているので確認テスト（小テスト）を複数回行う場合がある。 ⑯ 適宜ディベートやグループディスカッションを行う。			

- |  |   |
|--|---|
|  | <p>⑰ パワーポイントや配布資料に基づいて授業を行うことがある。</p> <p>⑱ 学習状況や進捗状況に応じて授業計画を一部変更する場合がある。</p> |
|--|---|